

鹿児島大学での 「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

〔開催概要〕

日時:平成27年1月29日(木)11:00~12:00

場所:鹿児島大学

※平成26年度 第7回目

平成27年2月

鹿児島市 市民協働課

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成27年1月29日(木)11:00~12:00
場所:鹿児島大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
1	鹿児島大学 男性	① 職員の派遣先、交流していく都市として、現在はアジアを主に考えていると聞いた。これからの鹿児島市に必要な行政サービスや地域運営に関するノウハウを入手するためには、福祉・人口減少・高齢化という鹿児島市と同様の課題を抱えているヨーロッパの先進国との交流も考えるべきではないかと考えている。このことについて、どのようにお考えか。	① いま、鹿児島市では都市間交流を市政の重要な施策として取組を進めています。特に、今後成長著しいアジア各国との交流について取組を進めています。私自身各国を訪問して、鹿児島市の魅力をお伝えし、また、青少年の交流も進めています。このことで異文化ではありますが、共通課題も話し合いながら、お互いの都市の発展につながればということでトップセールスを行っています。 また、鹿児島市ではアジア各国の青少年を迎え入れて、その文化を鹿児島市民に披露してもらう「かごしまアジア青少年芸術祭」を開催しています。 このほか、世界の4つの都市と姉妹友好都市の盟約を結んでいます。アメリカのマiami市、中国の長沙市、イタリアのナポリ市、オーストラリアのパース市の4つの都市と盟約を結んでおり、教育・文化・スポーツなどのあらゆる分野で交流を図って、お互いの都市の発展につなげていこうという思いで交流を進めています。特に青少年の交流に一番力を入れており、毎年この4都市には、中学生・高校生・大学生等を鹿児島市で選考して、派遣しています。 今お話しがあったように、人口減少や若者の働く場の提供、少子化に対する対策などの共通課題のある都市との交流や情報交換もしていきたいと思っています。 都市間交流に力を入れていますので、ヨーロッパを含め、そういう事例等がある都市にもアプローチをかけていければと思っています。	総務局	市長回答のとおり

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成27年1月29日(木)11:00~12:00
場所:鹿児島大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
2	鹿児島大学 男性	② 観光政策についてのアイデアだが、大学に進学する予定の高校3年生に対して、鹿児島市の魅力や有名な場所が掲載されているパンフレットを配布することで、そのパンフレットを使って鹿児島市のことを県外の人にPRすることが出来るとともに、本人たちにも鹿児島市の魅力を再発見してもらうことが出来るなど、長期的に見ると観光効果が生じると思う。都市部への流出は避けられない問題なので、それをうまく利用した観光政策が必要だと思うが、どのように考えるか。	② 鹿児島市の色々な観光をPRする場合に、市民が鹿児島市の魅力を知ることとは大変重要なことだと思います。 今、私どもが取り組んでいるのは、専門的な知識を持つ講師の方々に「もっと知ろうよ観光かごしま講師派遣事業」という事業で、学校・町内会などに派遣して、鹿児島市のことを皆様方によく知ってもらう取組をしています。 しかし、お話があったように、学生にそういうことを知らしめるということは、この派遣事業の中でもあまり機会がないのではないかと思います。ですので、どういう仕掛けが必要かということについては、高校生がいいのか、大学生がいいのかななども含めて、検討させたいと思います。 若い方々が鹿児島市に愛着や誇りを持ってもらえるような知識・意識を備えることができる機会は大変大事だと思います。	経済局	市長回答のとおり 【補足】 「鹿児島市観光サポーター事業」では、定期的に観光情報をメールマガジンで配信していますので、是非、観光サポーターに登録していただけたらと思います。 一方、学生の皆さまにも鹿児島島の観光を知ってもらい、本市の観光振興の一翼を担っていただきたいとの思いから、鹿児島観光コンベンション協会において、今年4月に「学生観光ボランティア」を設立します。この活動を通して、県外に進学した友人等へ鹿児島島の魅力を発信していただき、本市への観光客誘致につなげていければと思います。 また、市民の皆さまに鹿児島島のことをもっと知ってもらうため、ボランティアガイドと色々なコースを巡る「鹿児島ぶらりまち歩き」を毎月2回実施しています。こちらは市民のひろばや市観光HPで参加者を募集していますので、ぜひ参加していただきたいと思います。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成27年1月29日(木)11:00~12:00
場所:鹿児島大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
3	鹿児島大学 男性	③ 鹿児島市に長年勤めてきた市長の経験から、鹿児島市が求める一緒に働きたい人材、必要とされている人材とはどのようなものか。	③ やはり職員として仕事をする際に、自分の仕事に誇りを持ってほしいです。 また、私の理念として「市民が主役の鹿児島市」とありますので、市民のことを常に考えて、そして明るく積極的に何事にも挑戦をしていく気概を持っている人材が望まれていると思います。 ひとつの事業を進めるうえでは、自分一人で仕事をするわけではなく、多くの人たちの知恵や協力・連携が必要ですので、チームワークというのは大事だと思います。その中で自分が与えられた職責・職務について責任を持って成就するまでしっかりと取り組む姿勢も大切だと思います。	総務局	市長回答のとおり
4	鹿児島大学 男性	④ 来年度、仙巖園などを含めた近代化産業遺産群の世界文化遺産への登録が決まると思うが、景観の面から考えて周辺の電柱・電線を地中化するような考えはあるのか。	④ 今年の6月頃に近代化産業遺産群が世界文化遺産に登録されると期待しています。そうなると多くの方が鹿児島市を訪れて、世界文化遺産を見ていただくわけですが、景観に配慮することは大変重要だと思います。 磯地区では景観計画というものを、地域の方々との話し合いを踏まえて策定しています。その中で安全で円滑な交通環境の向上に努めるための事例として無電柱化への取り組みを示してあります。 電柱・電線というのはそれぞれの事業者が関わっています。電線の場合は九州電力ですが、地中にもガス管や水道管などの埋設管があり、そういう関係団体との合意形成が必要です。そういう合意が図られた路線については、計画的に電線の地中化を進めています。この磯地区も、関係団体との合意形成が図られれば進めていけますが、まだ課題もありますので、関係団体と話していかなければいけないと思います。	建設局	市長回答のとおり

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成27年1月29日(木)11:00~12:00
場所:鹿児島大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
5	鹿児島大学 女性	⑤ 鹿児島市には多くの魅力があると思うが、市長にとって鹿児島市の魅力とは何か。また、どのように鹿児島市の魅力を発信しているのか。	⑤ 鹿児島市には、明治日本の産業革命遺産などの遺産もありますし、現在取組を進めている桜島・錦江湾ジオパークもありますし、黒豚や焼酎、白くまなどの豊かな食もあり、また市内の至るところに天然温泉があります。60万人都市としての都市機能や交通結節機能も大変充実しています。このように歴史・自然・食・温泉・交通結節機能など大変多彩な魅力に満ちた都市だと思っています。また、市民の皆さまの温かい人間性や観光客に対するおもてなしの心も他の県や市に負けない魅力だと思っています。 これらの魅力については、私自身が各都市を訪れてトップセールスを行っていますし、都市間交流を進めていく中でも多くの都市に鹿児島市の魅力を伝えています。来週、札幌市長と長野県松本市長と3市長鼎談会というも実施します。国内でも色々な都市と交流していく中で、その都市に赴いて、その都市の住民に直接私自身が鹿児島島の魅力を紹介することもPRになっていると思います。 また、テレビや新聞など各種メディアを活用した広告も行っています。ふるさと大使という方々も認定しており、第一号は稲盛和夫さんですが、そういう著名な方々に鹿児島市の魅力を発信していただきたいと思っています。観光キャンペーンもしていますし、ホームページやフェイスブックなどでも広報宣伝を行っています。あらゆる機会を通じて、鹿児島市の魅力を発信していきたいと思っています。	経済局 企画財政局	市長回答のとおり

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成27年1月29日(木)11:00~12:00
場所:鹿児島大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
6	鹿児島大学 男性	<p>⑥ 介護保険制度は現在大きな問題を2つ抱えていると思う。1つ目は財政的な問題で、2025年には介護費用が現在の約2倍の21兆円になると予想されており、このことにより保険料が上がり、財政負担も大きくなり、介護保険制度のやりくりは可能なのかという問題がある。2つ目は制度的な問題で、被介護者が増えると、介護事業者の規模や数が多くなり、その時に委託者の市が介護の質を均一化するチェック体制が可能なのかという問題がある。また、要介護認定は普段介護をしている人ではない人がやっていると思うが、それで適切な要介護認定が出来るのかといった様々な問題があると思う。現在の介護保険制度では、これからの介護を担っていくのは難しいと思うが、どのようにお考えか。</p>	<p>⑥ 介護保険制度はこのままいくと財政的にも制度的にも大変難しい課題を残すのではないかと思います。この介護保険は、介護をする事業に対して、国・県・市の負担と介護保険料で賄われています。</p> <p>要介護者が増え、また介護認定が重くなるほど、それだけ費用もかかりますし、少子化により介護を支える方が少なくなってきたことで、納めていただく保険料も大きな負担となっているなど、おっしゃられたように財政的な大きな課題があると思います。</p> <p>いま、国の方では、そういうことをしっかりと踏まえた改革を進めようとしています。</p> <p>介護認定は、全国一律の基準に基づいて、公正かつ確に行われるべきものと思っていますので、鹿児島市では、個人情報保護等を考慮して公共性の高い事業者にて認定調査業務を委託しています。介護をする方にとっては、自分が介護をしている人の認定が低いんじゃないかという思いもあるかとは思いますが、全国共通の指標に基づいて公共性の高い事業者にしてもらっているので、しっかりとした制度になっていると思います。また、認定をする人に対しては、常に研修をして、必要な知識や技能を身につけて、公平公正に認定をしていただけるように努めています。</p> <p>いま、鹿児島市には介護を必要としている方々が平成25年度末で29,570、約3万人います。人口が60万人ですので、約20分の1が要介護者になります。どんどん増えていくのではないかと思います。</p> <p>また、介護をする際には、質の高い介護をしなければいけないですし、給付の適正化という観点からも、介護を担っていく事業者に対して研修や実地指導などの取組を進めています。指定・更新時に調査・確認を行っていますので、個別に相談に対応しているところです。</p>	健康福祉局	<p>市長回答のとおり</p> <p>【補足】 介護保険サービス事業者に対しては、介護保険法に基づきサービスの質の確保及び給付の適正化という観点から、研修や実地指導に加え集団指導も行っています。 また、指定・更新時に調査・確認を行うとともに、個別に相談に対応しているところです。</p>

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成27年1月29日(木)11:00~12:00
場所:鹿児島大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
7	鹿児島大学 男性	⑦ 現在鹿児島市では、観光交流センターや中央駅の観光案内所などで1回15分まで合計1時間までWifiが使えるが、今後は市電や市バスの中でwifiが使えるようにすることで、外国人観光客が増え、市電に興味を持つ人が増えると思うがどうか。	⑦ 国は外国人の観光客を2020年までに2千万人にするという施策を掲げています。鹿児島市においても増えつつあり、今年は10万人弱となりました。そういった中で、いまお話があったようにWifi受信の設備があるかどうかということが大きな課題となっています。国においても、Wifi設備に各自治体で積極的に取り組むようにというお願いがあります。 鹿児島市も8月からKagoshima City Free Wi-Fiサービスというものを提供しています。観光交流センター、天まちサロン、維新ふるさと館、桜島港フェリーターミナル観光案内所、湯之平展望所、城山展望台、鹿児島中央駅総合観光案内所といったところにWifiを設置しています。 また、旅館・ホテルにも設置してほしいということで、設置する場合には鹿児島市が補助するシステムがあります。 市電・市バスについては、他のお客様に対する環境整備や構造上のスペースの確保の問題もありますので、どういう課題があるか抽出して、課題が解決できるかどうか検討してなければなりませんと思います。 やはりWifi設備というのは外国人観光客にとって最も必要な設備だと思いますので、出来る限り進めていきたいと思ます。	交通局 経済局	【交通局】 市電・市バス車内へのWifi設備の設置については、導入費用や保守費等のランニングコスト等を考慮し、現在のところ導入する予定はありません。 また、設置及び使用のスペースの確保がしやすい電車停留場等にwifi機器を設置する場合においても、設置費用のほかに、保守費等の莫大なランニングコストがかかることを確認しています。費用対効果の面を考えながら、今後需要が更に高まっていくようであれば検討しなければならないと考えています。 【経済局】 市長回答のとおり

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成27年1月29日(木)11:00~12:00
場所:鹿児島大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
8	鹿児島大学 男性	⑧ 市長という立場は市政運営において市民の期待を背負う立場にあると思う。森市長が市長を目指そうと決意したきっかけや転機は何か。	⑧ 私は昨年12月で市長になって10年目となりました。平成16年12月23日から市長に就任しました。昨年鹿児島市政が125年となり、初代の市長から数えて20代目の市長となりました。 私は平成16年8月まで市の職員でした。平成16年11月に市町村の合併がありました。鹿児島市と吉田町・郡山町・松元町・喜入町・桜島町の周辺5町の合併があり、その準備を進める中で私は総務局長という立場でした。それぞれの所管部局のまとめをする局の責任者でした。また合併する際の各都市の仲介・調整をする役割を担っていました。 前の市長が8月にお辞めになるということで、その後誰が市長になるかとなり、色々と候補者も出ていたようです。私自身平成16年でちょうど市の職員として30年の期間がありました。合併に携わってみて、今後、新制鹿児島市がどういうまちづくりをするのか、どういふ発展をするか、また鹿児島市にとってどういふ事業がいいかということ、鹿児島市政・行政を知らない人よりも、私の方が合併にも携わってきましたし、行政経験もありましたし、また色々な団体とのネットワークもありましたので、そういう意味では私が市長としてのかじ取りをすることで、混乱がないのではないかと考えました。そしてもう一つは、合併をしたそれぞれの町長さん方からも、是非新しい鹿児島市を担ってほしいという要請もありました。 大きな決心でしたが、今後の鹿児島市のまちづくりを自分の手で手掛けていこうという大きな力がその時湧いてきました。そういった理由で決断をして、公務員生活に終止符を打ち、政治家という道を選び、あっという間に10年が過ぎました。どういふ評価が得られているかは分かりませんが、私自身はしっかりと市政運営をできたと思っています。	総務局	市長回答のとおり

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成27年1月29日(木)11:00~12:00
場所:鹿児島大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
9	鹿児島大学 女性	⑨ 鹿児島市の都市計画についての講義で、鹿児島市がコンパクトシティに取り組んでいると聞いた。コンパクトシティでは、電車やバスなどの公共交通機関が各地域を結ぶために重要である。お年寄りや体が不自由な方の移動の助けとなる公共交通機関は大事だと考えている。鹿児島市の公共交通機関の今後の在り方についてはどのようにお考えか。	⑨ 鹿児島市の公共交通関係の計画として、平成22年に「鹿児島市公共交通ビジョン」というものを策定しました。個性と魅力あふれるコンパクトな市街地を形成する集約型都市構造の実現に向けて、車に過度に依存しない、そして公共交通を軸とした交通体系を構築したいということで、このビジョンを策定しました。 公共交通は市電・市バス・鹿児島交通が2つ・南国交通・JRの6つがあり、お互い連携しながら公共交通のネットワークはありますが、やはり中心街を走っているのが多いと思います。コンパクトシティを形成するには公共交通は重要になってくると思います。それぞれの地域で生活がしっかり出来るような都市をつくっていくのがコンパクトシティです。お年寄りになると自動車に乗れずに、生活に欠かせないものを得るための行動が出来なくなるので、過疎地域を含めそういう地域に、公共交通を走らせる、もしくは公共交通に代わるものを走らせることが重要だと思います。 いま鹿児島市では、喜入・谷山・吉野・郡山・松元などにあいばすというものを走らせています。これは一般のバスと違い、交通不便地域に多くの皆様方が住んでいる場合に、そこを巡回するバスになります。また、バスが行けないところにもタクシーをバス代わりに利用していただくデマンドタクシーという乗り合いタクシー等の活用もしています。 高齢者や独居の方が多地域が生じていますので、出来るだけ生活に不便を感じない交通体系を作っていくことがコンパクトシティを進めるうえでも大変重要だと思っています。そういう観点から対策を進めていければと思います。	企画財政局	市長回答のとおり

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成27年1月29日(木)11:00~12:00
場所:鹿児島大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
10	鹿児島大学 女性	⑩ 講義の中で、大学生と地域との交流や関わりが希薄で、大学生にも地域活動に参加してほしいと聞いた。大学生と地域の人々が関わる機会というのは少なく、大学生が自ら町内会に入るというのは正直行きづらい。大学のボランティアサークルやボランティア支援センターに所属する人は、地域との交流も持ちやすいと思うので、所属していない学生に対して、所属してもらえるように大学と連携することで、もっと濃い地域との交流ができるのではないかと思うが、どう思うか。	⑩ やはり若い方々が地域の行事や活動に参加をしていただくことは、その地域の活性化にもつながりますし、地域の元気にもつながっていくと思います。 鹿児島市に町内会という組織がありますが、地域の人たちが集まって、その地域の色々な活動を進めており、地域の皆さまは町内会を通じて、住みよい地域づくりを進めていただいています。 少子高齢化・核家族化が進む中で、なかなか地域連携が薄くなるという現象が進んでいます。鹿児島市においても同様に町内会組織が少なくなってきました。そういう中で町内会の活動をする方がほとんど高齢者になってきていますので、鹿児島市としても若い方々や社会人として最前線で働いている方々に町内会活動や地域のまちづくりに参加してほしいという願いがあります。 そういった意味で鹿児島市では現在、地域コミュニティ協議会というものを各地域につくっていただけるように進めています。この地域コミュニティ協議会というものを作っていただいて、地域の課題の解決や地域資源の活用に、行政が指導や指示をするのではなく、地域主体で、それぞれの地域の人で、それぞれの地域を素晴らしいまちにしていくのかということを考えて欲しいということで協議会をつくっていただいています。 その中に学生の方々にも入ってほしいと思います。きっかけや情報がなく、入ってもどういうことをしたらいいかわからないということですが、ボランティアサークル等に入っている方はよく理解されているとのことですので、そういう方々にも協力をいただいで、住んでいる地域の町内会に入っていけるようにしたいと思います。	市民局	町内会では、同じ地域に住む皆さんが、住みよい地域づくりのため、一緒に話し合いながら協力し、ごみステーションや防犯灯の設置・管理をはじめ、災害時の助け合いや、住民同士の親睦交流を図る活動に取り組んでいます。 近年、少子高齢化や核家族化が進み、個人のライフスタイルや価値観が変化する中で、町内会加入者は減少する傾向にありますので、若い方々にも自分たちの住む地域の町内会活動に関心を持って、積極的に参加いただきたいと考えています。 また、本市では、地域課題の解決や地域資源の活用など、地域主体のまちづくりに取り組む、「地域コミュニティ協議会」を小学校区を単位に順次設立していくこととしており、地域内で活動している各種団体が連携・協力のもと、活力ある豊かな地域づくりを推進してまいりますので、ぜひボランティアサークル等に所属している学生の皆様方にもご協力いただきたいと思います。

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理方針

日時:平成27年1月29日(木)11:00~12:00
場所:鹿児島大学

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等
11	鹿児島大学 女性	⑪ 市長は、市民とともに鹿児島市をつくっていく、ということを理念に市政を行っていると思うが、実感や効果はあるか。	⑪ やはりまちづくりというのは、ひとつづくりだと思います。行政が何でも立案して、実践するというのは偏りが出ると思います。ひとが集まって知恵と工夫を凝らしながら、知識や経験を持ち寄って、ひとつの方向性に向かって検討し、協議をして、実現していくことが大切だと思います。 そういう意味で私は、市民とともに考え、市民とともに行動するということを理念にしています。地域コミュニティ協議会でもそうですが、皆さま方が実践している事業に、鹿児島市が参加していくということを積極的に行ってきました。地域でされる多くの事業に、鹿児島市が積極的に参加をしていくことで、色々な知恵をいただいたり、ご提言をいただき、実施した事業もたくさんあります。例えば喜入の観光農業公園やふれあいスポーツランドも、市民のご意見がありました。 鹿児島市が進めている事業にも、市民のご意見やご提言、知恵により出来たものも多いと思います。例えば、廃校になった小学校をどう活用すればいいかといったことも、地域の方々にご意見をいただいています。 今後も皆様方のご意見やご提言をいただきながら、まちづくりを進めていければと思います。	市民局	市長回答のとおり